

「アイヌ民族問題」で炎上した金子快之市議を直撃!

「この国には言論の自由がないのかって感じですよ」

「アイヌ民族問題」に関する「つづき」で一躍「時の人」となった金子快之市議(43)。マスコミから集中砲火を浴び、ついには所属していた札幌市議会の自民党会派から離脱を余儀なくされたが、その心中はいかばかりか。抗議団体から寄せられた公開質問状への回答内容を自身の事務所まで報道陣に説明した8月26日午後、当の金子市議を直撃した。



本誌の取材後、金子市議は9月1日付で自民党会派を離脱し無所属になった8月26日、札幌市内の事務所にて

「アイヌ民族なんて、いまはもういない」というツイートひとつです。すっかり有名になってしまった。

金子 政治家として名前が売れたのは悪いことではないかもしれませんが、正直戸惑いました。ただ、ああいう表現方法でなかったら、ここまで話題を呼ばなかったとも思います。私がネットにつづやいたこと、そしてそれが奇しくも騒動になったことで色々な意味で「こんな問題があつたんだ」と多くの人を知ることになった。その点はよかったと思います。

あれ以来、いろいろな方々からご意見を頂いています。でも、ご意見を頂いては、怒る人がいれば「アイヌ利権について」と調べて不正をやめさせてくれ」と言ってくる人もいます。実際、どちらかと言えば後者の方が多くに思います。アイヌの

血を引く国民の皆さんを、どう捉えるかについてもさまざまな見方があるわけです。それだけ国民の意見が分かれるテーマにもかかわらず、6年前に国会議員たちは何の議論もなく「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」を国会で通してしまつた。あなたたちは、いったい何をやっているんだと言いたいです。

——いわゆるアイヌ問題を検証するようになったのは。

金子 3年前、市議になつてからです。南区に市がつくつたアイヌ文化交流センター(通称・サップロピリカコタン)で儀式があるというので行つてみたのが、きっかけでした。そのチセ(アイヌの住居)の建て替えに関して不透明な部分が出てきて、これはどうなっているんだと。

道議会でアイヌ利権について追及している議員さんがおられましたし、市議会でも質問する議員がいらつしやつた。そういう皆さんと情報交換したり、自分で調べていくうちに、これはけっこう根が深い問題だな。ただ、私もアイヌ問題だけをやっているわけでは

なく、市議としていろいろなテーマに取り組んでいるんですよ(笑)。

——アイヌの血を引く国民を「アイヌ民族」と呼ぶのは適切ではないと主張されている。

金子 その呼称は、アイヌは先住民族で差別を受けてきたから賠償をしなければならぬというロジックにつながるわけですから「アイヌ民族はいない」となつたら全ての特権を剥奪されかねませんし、そんな発言をする輩は許すなということになる。何度も説明していますが、定義がなく明確な説明もできない「アイヌ民族」というものに特権を与えていくというのは、やはり無理があるんだと思います。

——メデイアバッシングが激しさを増し、辞職を促すキャンペーンを張っているようなところもあります。

金子 お互い、いろいろな考えがあることを許容し合うのが日本の本来の良さだと私は思っています。批判を受けるのは一向にかまいません。ただ多様な意見の存在を認めず、一方を排斥しようとする風潮があるとすれば、非常に残念です。

この国には言論の自由があつたはずですよ。

(談)構成 川本誌